短大では
日本初

新しいチャレンジ！！

２年間の半分を企業実習で学ぶ
産学連携キャリア創造コース

大阪夕陽丘学園短期大学
コーオプ教育を軸にした産学連携キャリア創造コース
学長　東田晋三、准教授　神殿織江

- 大阪夕陽丘学園短期大学について
- 産学連携キャリア創造コースの概要
- 産学連携キャリア創造コースの内容
- 教育効果とその把握、課題、可能性

大阪夕陽丘学園短期大学

創立82年の伝統と実績

関西でも有数の歴史ある短大

建学の精神「愛と真実」
良き人間を育てる
教育の原点となっている

食物栄養学科
定員：120名

キャリア創造学科
定員：100名

- 製菓クリエイトコース
- ファッションデザインコース
- ブライダルデザインコース
- ビューティーデザインコース
- 産学連携キャリア創造コース

- 大阪夕陽丘学園短期大学について
- 産学連携キャリア創造コースの概要
- 産学連携キャリア創造コースの内容
- 教育効果とその把握、課題、可能性

産学連携キャリア創造コースの概要

▶2021年度からスタート、2022年度に第1期生の卒業生を出す予定

▶現在、コース在籍者：11名（男子3名、女子8名）、当面15名を想定

▶インターンシップ期間　総日数86日間

1年後期：10月～12月　週3日　無給　計36日
2年前期：　4月～　7月　週4日　有給　計50日

提携企業様

- swissôtel NANKAI OSAKA
- ONWARD
- （株）セントラルフルーツ
- NAKAZAWA KENPAN ナカザワ建販株式会社
- 司法書士事務所 ともえみ
- Kintetsu 近鉄百貨店
- 株式会社アルゴセキュリティー Argo-Security Co., Ltd
- 株式会社アクトワンヤマイチ
- Knt 近畿日本ツーリスト ビジネス研修
- M'S PLANNING

1年後期実習後の企業担当者様の声

- **19歳の学生とは思えない**程しっかりした態度、実習作業、発表である
- 教育の賜物で**社会人として基本的な行動**がしっかりしていると感心している
- 礼儀正しく元気な学生で**現場に活力**を与えてくれた
- 引き続き2年前期の実習も是非来てもらいたい
- 挨拶、敬語などの基本的なマナーはしっかりできており**信頼して接することができた**。意欲的に取り組んで貰ったので助かる場面も多々あった。**理解と協調性**が特に高いと感じた
- 課題に黙々と取り組む姿勢、年齢の違うスタッフとのコミュニケーション、謝辞励行など、**こちらも学ぶ点が多かった**

本学の教育目的

建学精神と理念に基づいた「実社会において役立つ専門性とその活動を支える幅広い知識・教養と豊かな人間性を持った人物を育成する」

産学連携キャリア創造コースの目標

長期の就業体験及び事前・事後の学修を通して、他者と協力して、問題解決しようとする姿勢を持ち、自分の人生を自分で切り開いていく環境適応力を身につけた学生を社会に送り出すことである

産学連携キャリア創造コースの特徴①

事前・事後学習（教室） ＋ 長期就業体験（企業現場） ＝ 新人研修の必要がない学生

本コースの新設は、単に学生募集だけを目的としたのではなく、**人生１００年時代、働き方改革、女性のさらなる社会進出**という**社会の変化に対応した人材の育成**を目指したためである

産学連携キャリア創造コースの特徴②

短期大学卒業要件：62単位

事前学修・事後学修・長期就業体験：37単位

建学の理念に基づく人材を育成するために大学の「教育」として行っている

1年後期
1社1カ月X3社

企業研究I
企業研究II
企業研究III

313.5時間
9単位

2年前期
1社に絞り3カ月

有給

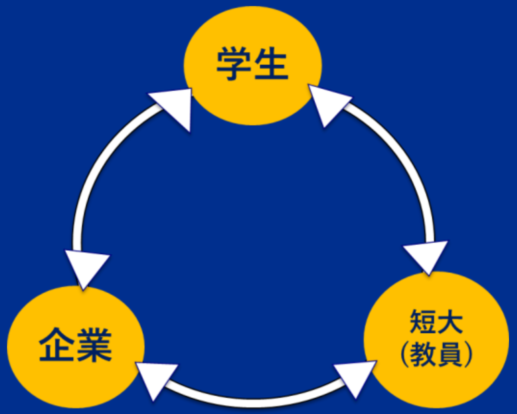
企業研究V
企業研究VI
企業研究VII

364時間
13単位

産学連携キャリア創造コースの特徴③

1年後期　無給
1社1カ月X3社

▶学生希望と企業3社とのマッチング



▶業界の異なる仕事体験＋観察

2年前期　有給
1社に絞り3カ月

▶実習というより「勤務」となる

▶新入社員と比べながら業務に取組む環境

▶有給であり長期であるからこそ、厳しさと実践的な学びが得られる

産学連携キャリア創造コースの特徴④

学科特性

・色彩学
・生命科学と倫理
・食と健康
・ビューティー基礎実習
・ウォーキング基礎実習
など

＋

コーオプ実践ゼミ

・コミュニケーション
・フレームワーク
・思考法
・問題発見・解決
・プレゼンテーション
など

- 大阪夕陽丘学園短期大学について
- 産学連携キャリア創造コースの概要
- 産学連携キャリア創造コースの内容
- 教育効果とその把握、課題、可能性

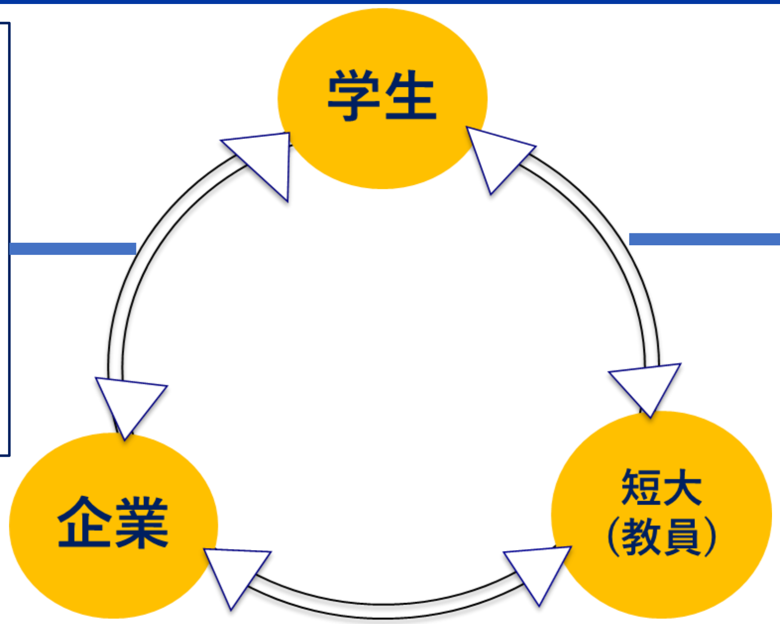
日本初　ー　短大でコーオプ教育導入：学内学習1年＋企業実習1年

目指す学生像:

社会で生き抜く力を育む。知識と経験の融合と他者と積極的に関わる力をつける
他者と協力して、問題解決しようとする姿勢を持ち、自分の人生を自分で切り開いていく環境適応力を身につける

実習前：実習目標の確認
実習中：PDCAを徹底
ISノート→担当者のフィードバック
実習後：振返り、成果発表

複数の長期企業実習から
仕事の知識、能力向上、
自己の興味に繋げる



主教員の丁寧なサポートにより学生の自己効力感を高める
▶事前学習で協調性、積極性、思考力、遂行力、発表力を向上
▶情報共有：
教員と学生間の共有フォルダ構築
学生の成果、写真、実習の情報の共有
▶学生が相談できる体制：対面やLINEで奨励
▶ゼミで報告・課題解決を図る
▶就職のサポート

企業と短大(教員)の信頼構築
実習前：学生動向、同コースの取り組みを頻繁に共有
実習中：実習現場に行き学生の実習をモニタリング
学生の実習態度・成果を企業と密に確認
１ヶ月終了ごとに成果報告、課題検討
ゼミで学生の報告・課題解決→企業担当者と共有
実習後：課題検討、今後の運営に生かす

1年前期：事前学習
徹底したグループ活動

1年後期：3社
長期インターンシップ

2年前期：1社に絞り
長期インターンシップ

有給

2年後期：事後学習
知識と実践の融合

≪知識、協調性、積極性、目標設定≫

①グループで研究：提携企業の研究、社会で求められる人材
・調査＆ディスカッション
・発表＆フィードバック
・マナー習得

②提携企業8社による説明会（6月中頃から7月中頃）
・企業との積極的交流
・学生の企業研究に対するフィードバック
・学生から質問

③自主性・責任感・積極性の涵養
現状及び先を見据えてすべき事を考え行動する思考

④ゼミで繰返し実習の動機付け
・実習の目標・戦略・戦術のPPT作成
・全体共有を図り修正

9月：マナー講座、近畿日本ツーリスト様によるビジネス研修、事前準備

1年前期：事前学習
徹底したグループ活動

1年後期：3社
長期インターンシップ

2年前期：1社に絞り
長期インターンシップ 有給

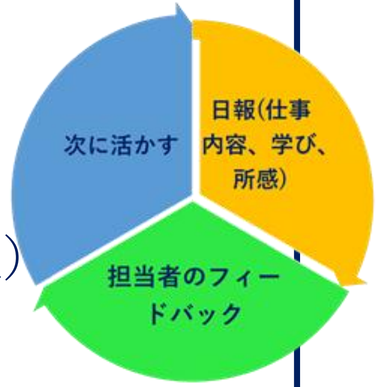
2年後期：事後学習
知識と実践の融合

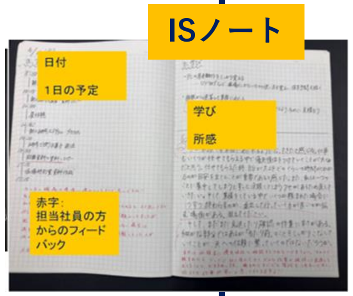
≪観察・実践・修正のスパイラル≫

1社　1カ月　X　3社
学生と面談を重ね、企業の受入人数確認後3社決定

企業：週3日
1社ごとに初日：実習目標発表

実習中：ISノート（日報、週報、月報）
・帰宅後日報記載
→翌日担当者からフィードバック





学内の学び：週2日
ゼミで実習の動機付け
・報告発表、課題共有
・各実習先の目標・成果発表のPPT作成

多方面の評価体制
・自己評価・担当者評価
・第3者評価（思考力・姿勢・態度）
　　事前・事後

教員は提携企業を訪問
・学生の実習をモニタリング
・企業と学生の報告・課題共有

≪自分の興味・価値観≫

1社に絞り3カ月
学生と面談を重ね、企業とのマッチングにより1社に絞る

企業：週4日、学内お学び：週1日
1年後期同様のフロー

・給料を貰い働く責任感
・1社で様々な部署を体験
・仕事の幅を広げ深い学び
・社会人基礎力のさらなる向上
・1年後期同様、目標発表、日報、成果の発表、ゼミでの報告・課題共有
・双方が納得すれば内定へ

実習フローチャート

初日

研修（実習のご説明）
誓約書等提出
評価シート（空欄）お渡し　参考①
学生プレゼンテーション
（1人約5分）
ご担当者様：フィードバック

日報(学生持参ノート)
参考②

学生：
実習当日分は帰宅して記載、配布資料をノートに添付し、整理

翌日ご担当者様に提出

ご担当者様：
押印後、朝に
学生に戻してください

週報(学生持参ノート)

学生：
1週間の振返りを記載

翌週にご担当者様に提出

ご担当者様：
可能な限りフィードバックをお願いします。その後、朝に学生に戻してください

月報(学生持参ノート)

学生：
1カ月の振返りを記載

最終週のどこかでご担当者様に提出

ご担当者様：
フィードバックをお願いします。その後、最終日に学生に戻してください

最終週

学生：
成果のプレゼンテーション
（１人約10分）

自己評価シートを提出

ご担当者様：

フィードバック
＋
学生に対する評価シートを渡してください

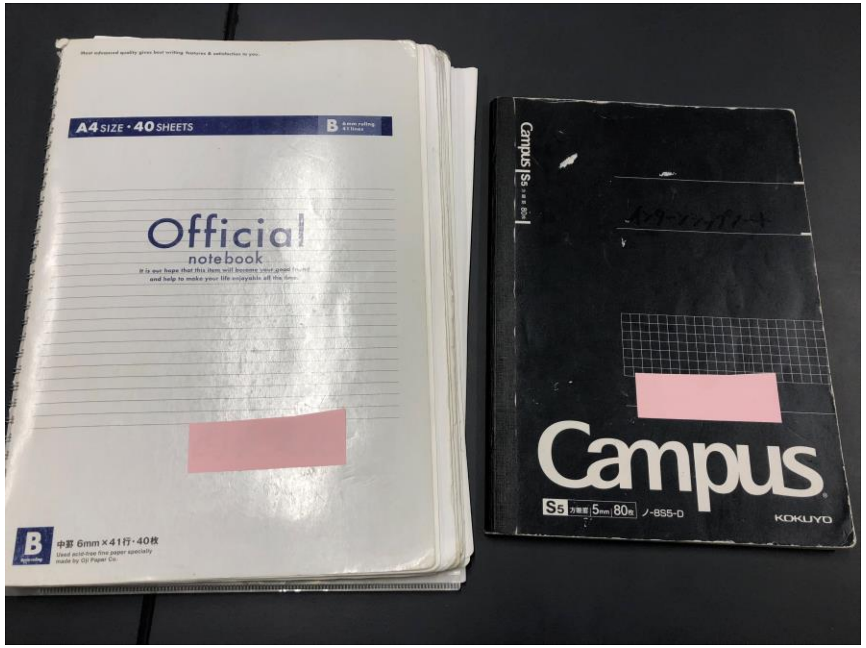
日報

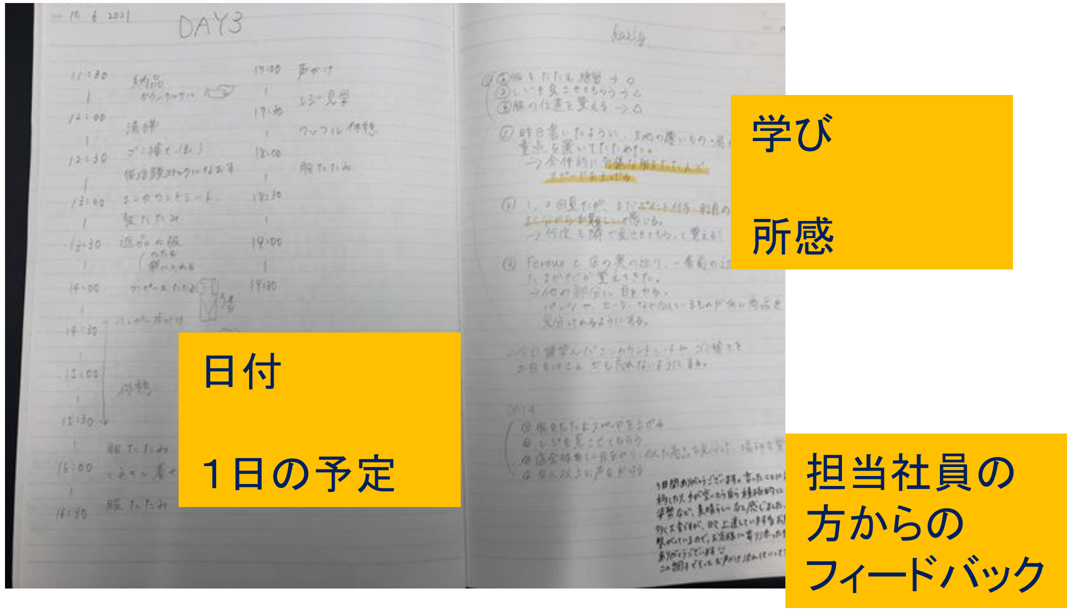
学生が作成したISノート

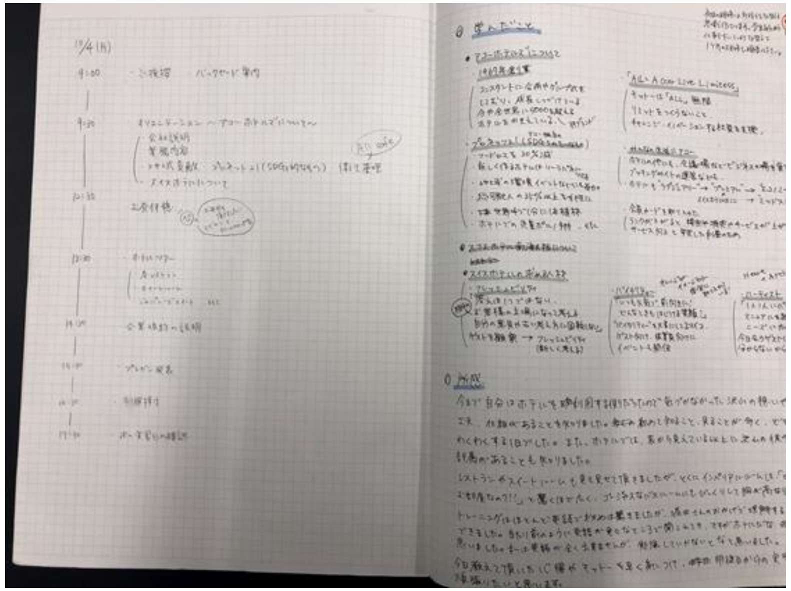
・アナログなコミュニケーションがこの教育システムの命

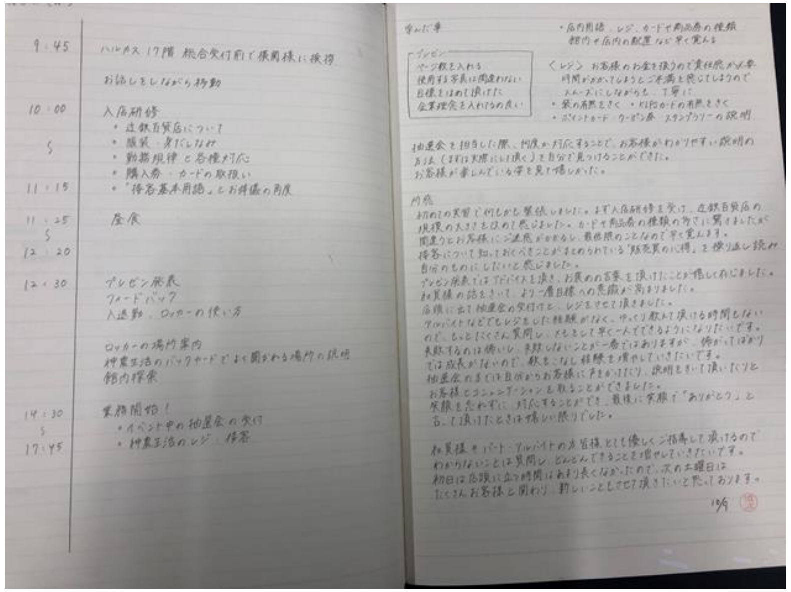
・学生にとっては自分の成果となり、自信に繋がる

・卒業後も頑張った自分を思い出し原動力となる

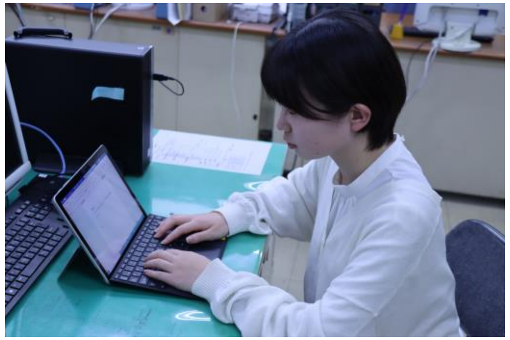








1年後期　企業実習
1人3社、1社1カ月



3社の実習終了後、企業様を招いて成果発表会

▶学生指導で気を付けていることー基本的態度

・時間管理、自己管理ができる
・挨拶、受答えの徹底
・マナー（態度、言葉遣い、他者を尊重）、報連相が徹底している
・他者の為に汗をかけるホスピタリティ精神
・自分の心に問い、ダメなものはダメと制御できる倫理観

▶企業様との協働に関して

・学生の成長や産学連携キャリア創造コースの取組みやニュースを共有
・実習中は、実習現場に行き学生の実習をモニタリング
・１ヶ月終了ごとに成果報告、課題検討(zoom或いは訪問)
・ゼミで学生の報告・課題解決→企業担当者と共有

▶工夫したポイント

・教員と学生の共有フォルダを構築
　　　学生のPPT、写真、企業情報・実習成果、その他連絡事項を即共有
・LINEで、学生と頻繁にコンタクト
・役割を決め、責任を持って行動できるようにする
・上手くいったところを褒め、課題は理由を説明
・何かに取組む際は、目標・戦略・戦術を習慣づけ、振返りを行う
・ゼミと次のゼミの間にグループで調査・PPT作成、次のゼミで発表をする体制

1年前期：事前学習
徹底したグループ活動

1年後期：3社
長期インターンシップ

2年前期：1社に絞り
長期インターンシップ
有給

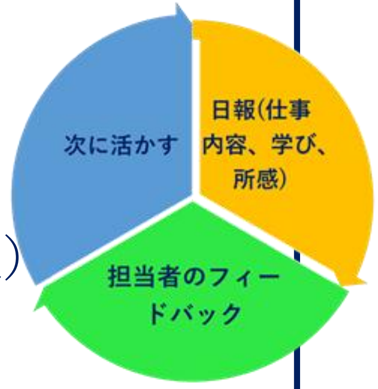
2年後期：事後学習
知識と実践の融合

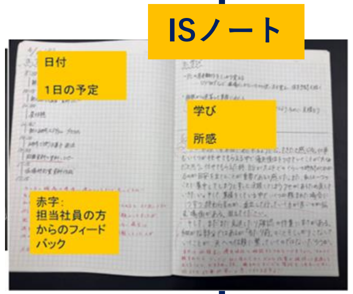
≪観察・実践・修正のスパイラル≫

1社　1カ月　X　3社
学生と面談を重ね、企業の受入人数確認後3社決定

企業：週3日
1社ごとに初日：実習目標発表

実習中：ISノート（日報、週報、月報）
・帰宅後日報記載
→翌日担当者からフィードバック





学内の学び：週2日
ゼミで実習の動機付け
・報告発表、課題共有
・各実習先の目標・成果発表のPPT作成

多方面の評価体制
・自己評価・担当者評価
・第3者評価（思考力・姿勢・態度）
事前・事後

教員は提携企業を訪問
・学生の実習をモニタリング
・企業と学生の報告・課題共有

≪自分の興味・価値観≫

1社に絞り3カ月
学生と面談を重ね、企業とのマッチングにより1社に絞る

企業：週4日、学内の学び：週1日
1年後期同様のフロー

・給料を貰い働く責任感
・1社で様々な部署を体験
・仕事の幅を広げ深い学び
・社会人基礎力のさらなる向上
・1年後期同様、目標発表、日報、成果の発表、ゼミでの報告・課題共有
・双方が納得すれば内定へ

1年前期：事前学習
徹底したグループ活動

1年後期：3社
長期インターンシップ

2年前期：1社に絞り
長期インターンシップ

有給

2年後期：事後学習
知識と実践の融合

≪実社会に出る準備≫

企業が行う新入社員レベルの学修カリキュラム
・ビジネスコミュニケーション
・企業X教員の寄付講座
（キャリア創造概論A・B）

知識と実践の融合

卒業研究発表
学生の家族、高校の先生、企業担当者、教職員を招き企業実習での学び・成果を発表

大きな成長：
・自己効力感
・遂行力
・職業観・勤労観
・他者と協力する力
・積極性
・他者への感謝

・社会で生き抜く力
・環境適応力

学生の可能性を大きく広げる

・実習企業からの内定の可能性

・自分の価値観に沿った就職

・大学編入の可能性

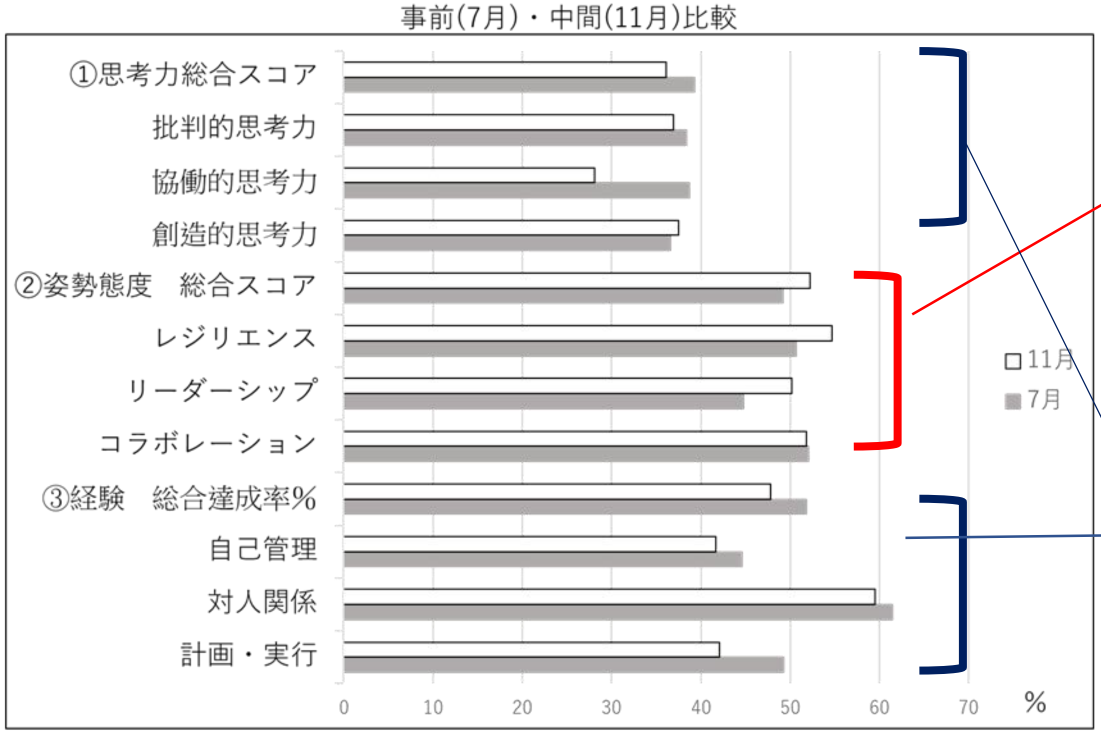
・共に過ごしてきた学生同士の深いつながり

- 大阪夕陽丘学園短期大学について
- 産学連携キャリア創造コースの概要
- 産学連携キャリア創造コースの内容
- 教育効果とその把握、課題、可能性

コーオプ教育の効果の可視化

ベネッセi-キャリア社の「GPS-Academic」アセスメントを２回受検し比較

1回目：1年前期終了時点
2回目：企業実習2社目終了時点



飛躍的に向上

現状を知り自己理解が進んだ

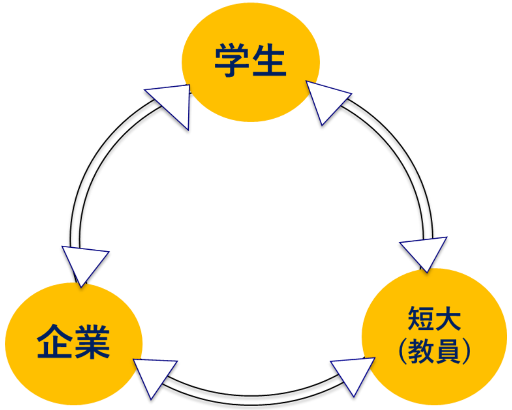
問題解決力		GPS-A 測定項目		新・社会人基礎力	学力の３要素
	思考力	批判的思考力	・情報を抽出し吟味する ・論理的に組み立てて表現する★	考え抜く力 （シンキング）	思考力 判断力 表現力
		協働的思考力	・他者との共通点・違いを理解する ・社会に参画し人と関わる★		
		創造的思考力	・情報を関連づける・類推する ・問題をみいだし解決策を生み出す★		
	姿勢・態度	レジリエンス	・感情の制御　・立ち直りの速さ ・状況に応じ冷静に対応する	チームで働く力 （チームワーク）	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
		リーダーシップ	・自ら先頭に立って進める　・未知の物に挑戦する ・粘り強くやり抜く		
		コラボレーション	・相手の立場に立とうとする ・他者と関わろうとする積極性		
	経験	自己管理	・挑戦する経験　・続ける経験 ・ストレスに対処する経験	前に踏み出す （アクション）	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
		対人関係	・多様性を受容する経験　・関係性を築く経験 ・議論する経験		
		計画・実行	・課題を設定する経験　・解決策を立案する経験 ・実行・検証する経験		

ベネッセiキャリア社のＧPS- Ａcademicの測定項目から許可を得て抜粋

課題

▶大学、担当教員・専門職員の育成
学生サポートと企業の密な連携が必須
各役割を担うフットワークと熱意ある人材が不可欠
学生・企業・大学の信頼関係を生み出す→学生のやる気、学修の勇気づける

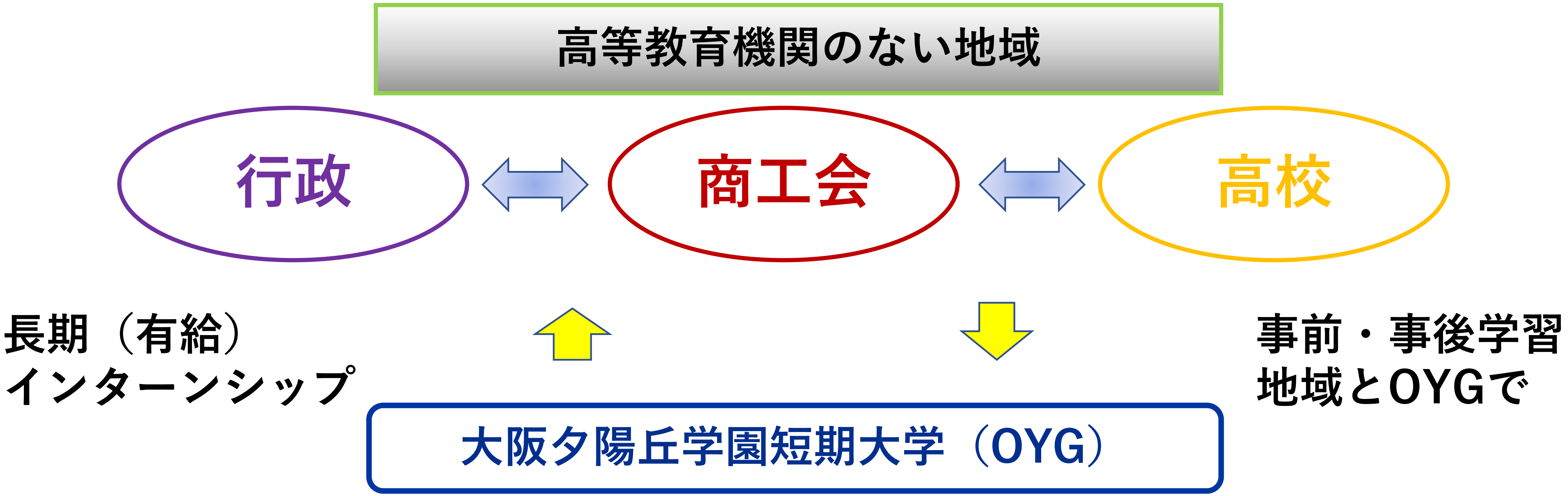
▶3者のコミュニケーションを“教育”という情熱でつなぎ、活性化させ続けることが、
常に、大きな課題となる



▶コーオプ教育に理解を持ってもらう社会活動や企業開拓は、まだまだ課題である。コーオプ教育について情報を持つ企業、団体を増やす努力が求められる

コーオプ教育の可能性

▶地方行政、地域の商工会、高校と連携し、このコーオプ教育を中核に、高校生が地元に留まり、地域産業との協働による長期有給インターンシップ（コーオプ教育）の教育効果を享受し、地場で活躍する人材を育てることが、過疎化に悩む地方とのコラボレーションは、短期大学にこそ大きなチャンスがある



▶高校教育に受け入れられるモデルに育て、高校・短大5年間のコーオプ教育を検討している。高等専門学校の文系版である。高校教育にコーオプ教育を融合させた新しい教育スタイルを提案し、既存の進路選択に新しい進路の可能性を示したいと考えている。

高校基本カリキュラム
と
OYGコーオプ教育の融合
＜5年間のプログラム＞

進学

18歳で就職

低年次キャリア教育を身に付けて
4年制大学に編入

20歳で就職

今後に向けて

▶産学連携キャリア創造コースを成功させ、その成功プロセスを多くの人たちに知ってもらえることが**コーオプ教育の唱道活動**になると信じている

▶本校は、その先頭に立ち続け、**社会に貢献したい**

ご清聴ありがとうございました

大阪夕陽丘学園短期大学
学長　　東田　晋三

産学連携キャリア創造コース
准教授　神殿　織江